

## A-02-6

### 重症頭部外傷患者の慢性期における機能改善と転帰

自動車事故対策機構千葉療護センター脳神経外科

○小瀧勝, 内野福生, 岡信男, 河野守正

【目的】受傷から数年以上経過した重症頭部外傷患者の慢性期における機能の改善と転帰について検討した。【方法】交通事故により頭部外傷を受けた重度の後遺症患者で、1997年10月以降に当センターに入院し2007年4月末までに退院した43例のうち、死亡退院3例を除いた40例を対象とした。男性29例、女性11例で、受傷時の年齢は平均22.5歳、入院までの期間は平均2.9年であった。その入院期間は平均3.2年であった。慢性期の重症頭部外傷患者の機能改善については当センターの評価スケールを用いて経時的に評価した。判定項目は、覚醒レベル、運動機能、言語理解、言語表出、視覚による認知、聴覚による認知、摂食機能、表情の変化、排泄、寝返り、移動の11項目である。【結果】入院時のスコアの分布は7点から88点であった。レベル判定表で10点以上のスコアの改善がみられたのは40例中22例(55%)で、入院後2年以内にスコアの改善がみられた。スコアの改善は0点から81点であり、改善率が10点未満の群は18例で退院時スコアは平均34.3、入院期間は平均3.1年、10点以上20点未満の群は7例で退院時スコアは平均60.1、入院期間は平均3.6年、20点以上30点未満の群は9例で退院時スコアは平均71.0、入院期間は平均3.1年、30点以上の群は6例で退院時スコアは平均82.6、入院期間は平均3.2年であった。40例の転帰では退院時は自宅が20例(50%)、施設が14例(35%)、病院が6例(15%)であった。なお、最終的には自宅が23例(58%)、施設が15例(35%)、病院が1例、死亡1例であった。

【まとめ】慢性期の重症頭部外傷患者に対して適切な治療を行うことにより、40例中22例(55%)において何らかの機能の改善を認めた。入院期間は平均3.2年であった。また、転帰では最終的調査で40例のうち23例(58%)で自宅での療養が確認された。